

第4投目：長かった釣れない日々

2014.3月某日、奄美磯釣連盟3月大会2日目の釣行です。3日間の釣果で現物審査を行い順位を決めるこの大会は、まずその3日間に自分の都合を合わせ、天気を判断して釣行し、その上40cm以上のクロを釣り上げなければならないプレッシャーのかかる大会。

この日の私はクラブ4名で大会入賞を狙い磯へ。海は北からの波が3mから1mへと落ち、屈げていく予報がでています。渡船は朝5時に古仁屋港を出港、まだうねりが残る真っ暗な海を東側海域へと向かいました。

1月はある程度釣果に恵まれていた私ですが、2月に入ると乗る磯乗る磯、クロの姿すら見かけない日々が続きました。思えば常に一発逆転の大型を狙う磯選びを繰り返し、結果的に釣果無し。今日こそは大会入賞のために磯を選択しなければ…私は最近良型は出てなくても釣果は安定している神ノ鼻という磯へまだ暗いうちに渡礁しました。

この日は満潮が午前6時で干潮は正午頃、2回の潮変わりを磯の上で迎え討てそうです。『まずは満潮までに1枚でも』と電気ウキで磯際を中心に当て潮を攻めますが、赤い魚が1匹のみとクロにはたどりつけません。そうこうしているうちに夜は明け、上げ潮も止まってしまいました。

さて、この磯は最近の情報でGTが回遊していると聞いていました。奴が回遊すると針に掛かった魚にほぼ喰らい付き、運が悪ければ仕掛けごと引きちぎってしまいます。まだ奴は確認できませんが、登場してくる前になんとかクロをしとめたいという気持ちでいっぱいでした。

時間は過ぎ午前8時頃、下げ潮が徐々に強くなり始める中、クロが確認できるならまだしも、釣り座から見える海はアイゴやスズメダイなどの餌取り達が活発に泳ぎ回り、クロ釣りをする気になれません。そこで私はそれらの魚がうまく泳げないが、クロなら活発に餌を拾えそうなサラシがある根の上に狙いを変更しました。その場所で5分、ついに餌が取られ始め、小さいイスズミを釣った直後の1投…重量感のある魚がヒット、すぐに磯際のワレに逃げ込もうとします。テンションを抜きながら深場に誘導すると白い尾びれの魚が確認できました！そこからはGTがいつ登場してくるかヒヤヒヤしながら船着け

まで魚を誘導し無事にタモ入れ。大会にエントリーできるサイズのクロを何とかゲットすることができたのでした。

長い釣れない日々末、大会中に掴んだ貴重な1枚。クロを釣るとはこんなにも難しいものだったのか…と改めて思いなおし、魚を見つめながら磯の上で一人感慨にふけた私でした。その20分後、30kgはあるGTが悠々と泳ぎ回る海へと変化…ギリギリセーフの大会でした。

